

女子大学生の昼食における購買行動 なぜ、スーパーマーケットで中食を購入しないのか

中央大学専門職大学院 戦略経営研究科 修士課程

積田 唯 (学術研究／個人研究)

今回の研究では、「女子大学生」つまりは若い単身女性の中食に注目してスーパーマーケットで買わない理由と中食の購買行動を調査した。

〈仮説〉

スーパーマーケットで買わない理由は、営業時間により利用されていない。コンビニエンスストアなら24時間営業のため時間を気にせずに購入できる。

また、スーパーマーケットは、店舗が広いので多く歩かなければならないので買い物が面倒になるのではないかと仮説した。

〈調査方法〉

期間：2014年9月下旬～12月上旬

対象：埼玉県S市J女子大学に在籍の18歳～20歳の女子大学生

調査：(1) 質問紙調査：58名に日々の生活・食生活の質問を行った。

(2) レシート調査：57名に平日4日間の昼食のレシートを提出してもらった。

(3) 動線調査：16名にスーパーマーケットでどのように500円以内で昼食を購入するかを観察した。

〈結果〉

質問紙調査では、現在の住居については、実家暮らしの学生が多くを占めていた。昼食を食べる割合が約90%と朝・夕食より高い。中食を週2～1日食べる学生が約60%で中食を食べる時間帯も昼食が半数を占めていた。

中食を購入する場所は、やはりコンビニエンスストアが約半数を占めていた。コンビニエンスストアのイメージで約半数が「近い」と回答している。距離的な近さもあるが、24時間営業による心理的な近さもあるのではないだろうか。

また、スーパーマーケットとコンビニエンスストアの惣菜の味に関しては、ほぼ同水準の回答であることから惣菜・弁当の味には問題がないといえる。

レシート調査では、食事の内容で、自炊や手作り弁当が52%、外食が14%、中食が27%である。その中でスーパーマーケットの中食は11%と非常に低い割合になっている。

動線調査では、回遊型と集中型の2パターンがあった。

回遊型は、何度も同じ場所をぐるぐる回り商品をなかなか手に取らなかった。集中型は、特定のコーナーで商品を吟味し購入している。

〈考察〉

昼食を中食で済ます傾向にあるが、短いお昼休みの時間にスーパーマーケットで購入することが難しいことがわかった。中食を購入しない理由は、①営業時間の不一致②中食の陳列が複雑③店舗が広い④レジの混雑により利用されていないことが判明した。

これを改善する為には、スーパーマーケット内に一部コンビニエンスストアのような陳列をし、少数購入者用のレジを設置することである。つまりは、スーパーマーケットの店内に小さなコンビニエンスストアがあるイメージである。コンビニエンスストア陳列の部分のみ営業時間を早めて開店をする。

中食(弁当・惣菜・サラダ・ホットスナック・パン)・飲料・デザート・フルーツ・菓子などの商品を扱う。

今回の研究から、女子大学生がスーパーマーケットで購買する可能性が大いにあることがわかった。今後は、晩婚化や共働きが増えることを考慮すると男子学生の調査を行うことでさらなる展開が見えてくるのではないかと推測できる。